

## 屋外タンク貯蔵所の泡消火設備の 一体的な点検に係る講習会

事故防止調査研修センター

屋外タンク貯蔵所の泡消火設備の一体的な点検に係る講習会（初回講習、再講習）では、令和5年度からeラーニングと対面講習とを組み合わせたハイブリッド方式を導入しました。令和7年度は、次の会場で開催し、約200名の方に受講いただきました（令和8年度も同じ会場で開催予定です）。また、令和8年度からはeラーニング学習時に顔認証機能を導入します。この変更に伴い、カメラ付きのパソコンを利用できない場合、ハイブリッド方式の講習は受講できなくなるのでご注意ください。

なお、対面講習（eラーニングを含まない講習）は東京会場で初回講習のみ開催予定です。

eラーニングによる事前学習期間は、初回講習（標準学習時間5時間）、再講習（標準学習時間3時間）ともに約2週間、実習を主体とした対面講習は2時間30分です。

### ◆開催場所◆

- ・苫小牧市文化交流センター（北海道苫小牧市本町1-6-1）
- ・危険物保安技術協会（東京都港区虎ノ門4-3-13）
- ・大阪市立阿倍野防災センター（大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋3-13-23）
- ・ライフパーク倉敷 倉敷市民学習センター（岡山県倉敷市福田町古新田940）
- ・ウェルとばた（福岡県北九州市戸畑区汐井町1-6）

eラーニングによる事前学習は、テキストに基づいた解説をAIによる音声で行っており、イラスト及び写真を活用した理解しやすい構成としました。事前学習期間中であれば深夜・休日でも受講可能であることから、交代勤務の受講生の方でも受講しやすくなっております。

また、再度視聴したい部分については、所要の操作を行うことにより改めて視聴することができます。

**4.4.3(2) 泡の採取**  
ア たん白泡消火薬剤の場合

手順7



シューター操作要員は、指揮要員の開始指示を受け、シューターの先端を泡試料コレクタ上部に移動し、泡が泡試料コレクタの斜板を、流れて流れて泡試料コンテナに流れ込むように調整する。

手順8

**計測開始**



泡試料コンテナAに対応するストップウォッチ      泡試料コンテナBに対応するストップウォッチ

時間計測要員は、泡試料コンテナに泡が十分満たされるのと同時に、泡試料コンテナA及びBに対応するストップウォッチをそれぞれ押し、秒読みを開始する。

泡試料コンテナに泡が十分満たされた。

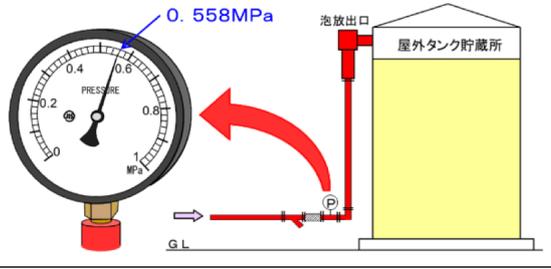
**第4章 P181**

手順6① テスト用圧力計測要員は、テスト用圧力計の指示値を記録要員及び計算要員に伝える。  
計算要員は、当該圧力から水頭圧及び配管摩擦損失を差し引いて、放射圧力を求める。

テスト用圧力計の指示値 = 泡放出口からの放射圧力 + 水頭圧 + 配管摩擦損失

泡放出口からの放射圧力 = テスト用圧力計の指示値 - 水頭圧 - 配管摩擦損失

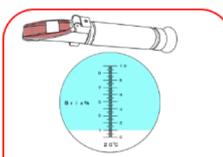
0.558MPa      0.2MPa      0.0057MPa



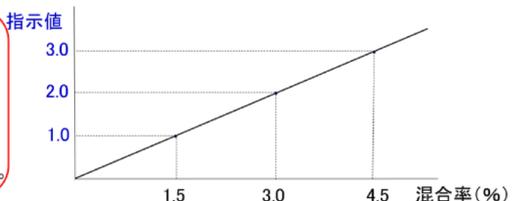
イラスト及び写真を活用した画面構成

実習を主体とした対面講習では、泡放出口からの泡放射による一体点検の実施状況を収録したビデオを視聴した後に、ビデオの内容を踏まえた一体点検の実施要領について講師が解説します。

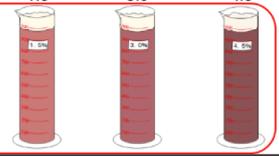
**混合率を正確に測定するためには、正確な標準混合率グラフを作成することが必要である。**



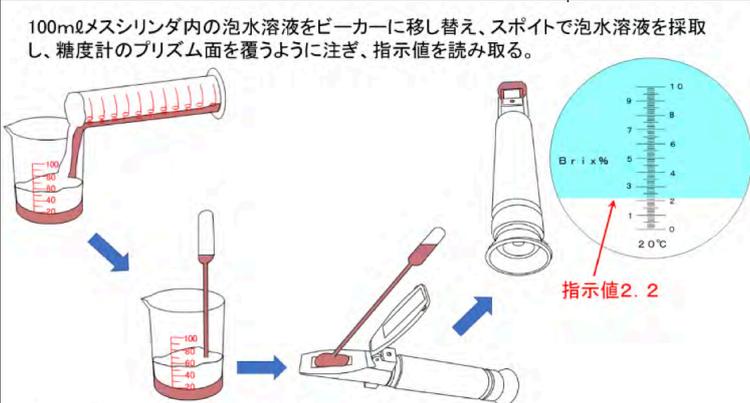
②糖度計を正しく使用する。



①標準試料を正確に作成する。



100mlメスシリンダ内の泡水溶液をビーカーに移し替え、スポイトで泡水溶液を採取し、糖度計のプリズム面を覆うように注ぎ、指示値を読み取る。



指示値 2.2

ビデオの内容を踏まえた一体点検の実施要領の解説

実習においては、一体点検で使用する測定機器を使用して、一体点検の確認項目である発泡倍率、25%還元時間及び混合率について測定します。実習で使用する訓練用泡薬剤には有機フッ素化合物 (PFOS・PFOA等) は含まれておりません。



写真1 泡採取の状況



写真2 25%還元時間の測定状況